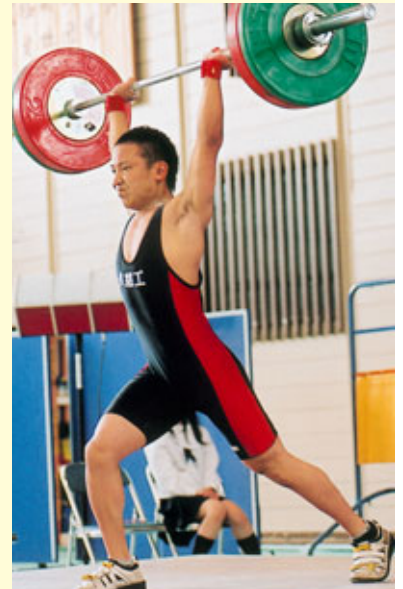


部に欠かせない存在 東北に闘志を燃やす



● 宮本英紀 (みやもと・えいき)

身長167センチ、体重64キロ

69キロ級で挑戦する宮本英紀君。1年時は県大会でもスナッチ77キロ、ジャーク85キロ、トータル162キロで2位につけ、東北大会ではスナッチで6位の成績を収めた。

吉田監督が「英紀はムードメーカー。この部は英紀で持っています」と言うほど、練習では人一倍声を出している。部には欠かせない存在だ。

彼は自身の今の課題を「スクワットで足を強くすること」と話す。技術面で、ジャークを苦手としているからという。それを克服するため、ひたすら練習を繰り返す毎日だ。

「英紀はどこに連れて行っても練習でへばることはないですよ」と吉田監督。今年5月、日本大学の合宿に宮本君らを連れて行ったという。大学生が強化期間でかなりハードな練習をしていたにもかかわらず、宮本君はそのメニューを完全消化し、自分を鍛えた。

「先生はいつでも真剣に指導してくれます。そして自分を押し上げてくれます」と宮本君。残念ながら8月の「大阪インターハイ」には出場できないが、来年の東北大会に標準を合わせ、闘志を燃やす。そして、尊敬する吉田監督の前でメダルを狙っている。

■ Weight lifting ■

1キロでも多く持ち、 大阪で“上位”を狙う

● 太田孝典 (おおた・たかのり)

身長170センチ、体重62キロ



今年6月の県大会62キロ級でスナッチ71キロ、ジャーク92キロ、トータル163キロの記録をたたきだしインターハイの標準記録を超えた。そして、全国の代表枠10人に選ばれ、うれしい念願の「全国切符」を手にした。

太田君は入部して1年時から頭角を現し、県新人戦、県総体で上位に入賞した。

「大会で自己新記録を出したときは本当にうれしいです」と汗を拭いながら彼は言った。毎日の努力の積み重ねが結果を生んでいる。

そんな彼でも「もうやめたい」と思ったことはあると言う。

「入部した当初はフォームが思いどおりいかなく、自分ではどうにもならなかったです」と振り返る。

しかし、謙虚で前向きなのが彼のいいところだ。「筋肉面もメンタル面も自分はまだまだです」と太田君。自宅に帰っても腹筋やストレッチなど基礎練習は欠かさない。

日々努力を続けやっとなかなかだ全国の切符。「大阪インターハイでは1キロでも多く持って、上位を狙いたいです」と決意を語った。

彼の額を大粒の汗が流れる。8月の「大阪インターハイ」を見据えるその目は輝いていた。